

科目名	看護理論			選択必修	選択
担当教員	筒井真優美				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	開講日12:30～13:00
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 1. 看護学・看護科学における看護理論の意義を説明できる。 2. 看護実践と看護理論の関連について説明できる。 3. 看護理論の評価および今後の課題について述べることができる。					
■ 授業の概要 実践科学である看護学・看護科学の変遷を概観し、看護理論の役割・意義、および今後の課題を探究する。また、世界の動きに注目し、西洋と東洋を越えたグローバル化された看護理論と実践に活用できる中範囲理論を追究する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	看護学・看護科学(オリエンテーションを含む)				筒井
2	看護理論の概観				筒井
3	理論の構成要素と理論評価				筒井
4	看護実践課題と看護理論				筒井
5	看護実践課題と看護理論				筒井
6	看護実践課題と看護理論				筒井
7	日本における看護理論の概観				筒井
8	看護理論における今後の課題				筒井
■ 準備学習 修士課程で学んだ資料などがあれば持参してください。					
■ 教材・テキスト 筒井真優美編著(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院. 筒井真優美編著(2015). 看護理論―看護理論20の理解と実践への応用 改訂第2版. 南江堂.					
■ 参考書 ★Alligood, M. R. (2014). Nursing theorists and their work (8th ed.). St. Louis, MI: Elsevier. Chinn, P. L., & Kramer, M. K. (1995)/白石聡監訳(1997). 看護理論とは何か. 医学書院. Chinn, P. L. and Kramer, M. K. (2004)/川原由佳里監訳(2007). チン&クレイマー 看護学の総合的な知の構築に向けて. エルゼア・ジャパン. ★Chinn, P. L. and Kramer, M. K. (2011). Integrated theory and knowledge development in nursing (8th ed.). St. Louis, MO: Mosby, Inc. Fawcett, J. (1993). Analysis and evaluation of nursing theories. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. Fawcett, J. (1995). Analysis and evaluation of conceptual models of nursing. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. ★Fawcett, J. (1993)/太田喜久子・筒井真優美監訳(2008). フォーセット 看護理論の分析と評価. 医学書院. ★Fawcett, J. (2013). Contemporary nursing knowledge: Analysis and evaluation of nursing models and theories (3rd ed.). Philadelphia, PA: F. A. Davis Company . George, J. B. (1995)/南裕子・野嶋佐由美・近藤房恵(1998). 看護理論集 増補改訂版. 日本看護協会出版会. ★Meleis, A. I. (2011). Theoretical nursing: Development and progress (5th ed.). Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins. ★Tomey, A. M. & Alligood, M. R. (2002)/都留伸子監訳 (2004). 看護理論家とその業績 第3版. 医学書院. ・Walker, L. O., & Avant, K. C. (2010). Strategies for theory construction in nursing (5th ed). Norwalk, CT: Prentice Hall. ・Walker, L. O., & Avant, K. C. (2005)/中木高夫・川崎修一(2008). 看護における理論構築の方法. 医学書院.					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業の取り組み 50% 課題のプレゼンテーション50% 計100%					
■ 教員からのメッセージ 看護における先達たちの情熱に触れながら、楽しく学び、自由に意見を述べ、他者と対話できるとよいと思います。 オフィスアワー: 授業時間以外は、事前にアポイントメントをとってください。 メールアドレスtsutsui@redcross.ac.jp					

科目名	赤十字人道援助論			選択必修	選択
担当教員	東浦 洋				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	授業終了後およびメール (随時)にて受け付けます
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 赤十字人道援助の原則、国際人道法、国際的な基準、現状と課題について習得し、援助事業の企画・実施・評価の分野において実際に行動できるようになること					
■ 授業の概要 世界の人道援助の課題と人道援助にかかわる国連、国際NGO等の主要国際機関の動向について検討し、赤十字が国内外で実施すべき人道援助について、歴史的な視点と具体的な活動事例を用いて教授する。 また、赤十字の基本原則、武力紛争時に適用されるジュネーブ条約を中心とした国際人道法、および大規模災害時の国際救援からの学びから主要国際機関と協働して作成した国際救援最低基準(スフィア・プロジェクト)などについて検討し、将来具体的に活用できるようにするとともに、それらの改善に向け貢献できるようにする。さらに、途上国の開発援助における、主として保健・衛生分野の支援活動の現状を理解し、課題について探求する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	オリエンテーション、赤十字の起源と発達、赤十字基本原則、行動規範				東浦
2	国際人道法と看護師の権利・義務				東浦
3	世界の人道援助の課題と人道援助期間の動向				東浦
4	スフィア・プロジェクト				東浦
5	赤十字災害救護(国内)				東浦
6	赤十字災害救援(国際)				東浦
7	赤十字開発事業				東浦
8	赤十字人道援助の課題				東浦
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 授業終了時に示す内容について、復習しておくこと。					
■ 教材・テキスト The Sphere Project, Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response, 2011 Edition; Manual on the Rights and Duties of Medical Personnel in Armed Conflict; World Disasters Reports, etc.					
■ 参考書 国際人道研究ジャーナル各号、日本赤十字社、ICRC、IFRCなどのHP					
■ 成績評価の方法及び採点基準 課題レポート					
■ 教員からのメッセージ 赤十字の人道援助の実際と課題について知悉し、将来、赤十字の実際の活動現場と教育との連携協力を積極的に推進していく人材になっていただきたいと思います。 オフィスアワー: 事前にメールにて時間予約をしてください。					

科目名	科学的研究方法論Ⅰ（実験研究）			選択必修	選択
担当教員	根本昌宏、村林宏、姫野稔子、佐藤満				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	根本:17:00-18:00(水) 村林:17:00-18:00(月) 姫野:17:00-18:00(金)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的					
設定した研究テーマに対して科学的根拠を明らかにするために有効な実験デザインと準実験デザインによる研究計画と各種測定手法を理解し、実践することができる。					
■ 授業の概要					
実験研究に不可欠となる動物およびヒトの生体で起こる現象を科学的に立証するための研究方法、生体反応など様々なバイオマーカーを利用した実験研究及び準実験研究の方法について教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	1. 実験研究を行うにあたって 2. 実験研究と倫理 3. 実験動物とその取扱い 4. 非臨床試験の概要とGLP 5. 薬の効果と有害作用の評価				根本
2	1. 実験動物代替法 2. バイオマーカーと疾患 3. 酵素免疫測定法の基礎 4. 酵素免疫測定法を用いたストレス評価 5. 生体反応・環境因子の評価手法				根本
3	1. 実験動物試料の扱い方 2. 組織試料作成方法 3. 組織染色の基礎 4. 抗原抗体反応の基礎				村林
4	1. 免疫組織化学法の手技 2. 実験結果の判定 3. 免疫組織化学法の応用 4. 画像作成時の注意				村林
5	1. ヒトを対象とする実験研究の倫理 2. 運動生理学の基礎 3. 体組成の測定法 4. 身体活動量の定量化				佐藤
6	1. バイオメカニクス(生体力学)の基礎 2. 至適運動強度の決定法 3. 筋電図による動作解析方法 4. 画像による動作解析方法				佐藤
7	1. 準実験研究デザインとは 2. 準実験研究の内容妥当性の考え方 3. 内容妥当性を高める方法				姫野
8	1. ヒトを対象とした準実験研究の具体的なプロセス-計画立案から分析まで-				姫野
■ 準備学習					
次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。講義後にレポート課題に取り組むこと。					
■ 教材・テキスト					
指定しない。					
■ 参考書					
必要に応じて提示する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準					
講義終了時に、各講師が課題を提示するので期限までに提出すること。 配点は各教員25点で、合計100点である。					
■ 教員からのメッセージ					
客観的評価法として重要な実験研究の内容ならびに技術を理解して、自らが計画、実行、評価、改善できるように学んで下さい。 人間を対象とした研究成果によって看護学を発展させていきましょう。(姫野)					

科目名	科学的研究方法論Ⅱ（臨床介入研究）			選択必修	選択
担当教員	伊藤善也、西片久美子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	伊藤：12:00-13:00(火・水) 西片：18:00-19:00(月)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 1. 臨床介入研究に関する論文を批判的に読解するための基礎的な力を養う。 2. 臨床上的の問題を臨床介入研究により解決するための方法論を学ぶ。					
■ 授業の概要 臨床現場で介入による治療・ケアの効果を得るために臨床介入研究を計画し、遂行するプロセスについて教授する。介入のための方法論や結果分析法などについて実践的に教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	概論1：臨床研究のなかに位置づけられる臨床介入試験の概要を理解する。				伊藤
2	概論2：実施にあたって基礎となる非臨床試験、生物統計学や研究倫理について学ぶ。				伊藤
3	臨床介入試験の設計1：薬剤を含む医療技術を開発するための臨床介入試験の設計について学ぶ。				伊藤
4	臨床介入試験の設計2：有効性、安全性と非劣性（優越性）を検証する試験を薬剤の開発を具体例にして理解する。				伊藤
5	臨床介入試験の実施：実施計画書の作成、実施体制の構築、研究の実施までの流れを治験を例にして理解を深める。				伊藤
6	臨床介入試験の評価および実践：実施した臨床介入試験の結果をまとめ、他の臨床試験と比較する方法論について学ぶ。				伊藤
7	看護における臨床介入研究の特徴と意義および限界について、治験等と比較しながら理解する。また、主な看護の臨床介入研究について概観する。				西片
8	看護における臨床介入研究のためのプロトコルの作成と介入の実際、および論文のまとめ方について、具体例をもとに学ぶ。				西片
■ 準備学習 講義の1週間前に授業内容の理解を進めるための資料を提示するので、講義を受けるまでに学習してください。					
■ 教材・テキスト 指定しない。					
■ 参考書 必要に応じて提示する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 講義終了時に各講師より提示されたテーマでレポートを作成する。配点は伊藤担当分：74点、西片担当分：26点で、合計100点である。					
■ 教員からのメッセージ 看護師として臨床介入研究を立案・設計・実施できるような知識を身につけ、実践できるように取り組んでください。					

科目名	科学的研究方法論Ⅲ（尺度開発）			選択必修	選択
担当教員	河口てる子、中野実代子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	河口 土 16～18時 中野 水 17～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 量的な観点から看護学における現象を探究するために、測定したい現象を概念化し、その概念を尺度化する尺度開発のプロセスを教授する。さらに、看護学の基盤を発展させるための尺度の活用方法について教授する。					
■ 授業の概要 講義内容をもとに尺度開発に関する文献検討により深めた内容のプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。					
回	授業内容及び方法				担当
1	測定したい現象を尺度化するプロセス				河口・中野
2	アイテムプールとワーディング				河口・中野
3	尺度の信頼性の検討				河口・中野
4	尺度の妥当性の検討				河口・中野
5	翻訳尺度の作成プロセスおよび妥当性と信頼性の検討				河口・中野
6	下位尺度をもつ尺度の構成と得点化				河口・中野
7・8	尺度開発に関する文献のクリティーク				河口・中野
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況（プレゼンテーション50%、討議内容50%）で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。					
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。					

科目名	科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)			選択必修	選択
担当教員	小林 裕美、石崎 智子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	小林:12:20-13:20(火) 石崎:17:00-19:00(火)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 1)看護研究における質的統合法(KJ法)の活用の意義について理解できる。 2)質的統合法(KJ法)におけるデータ分析の手法を体験し、質的統合法の方法論としての特徴を理解できる。 3)看護研究における現象学的研究の意義と目的について理解できる。 4)現象学的研究におけるプロセスを理解し、看護研究への活用を思索できる。					
■ 授業の概要 看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力を培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、質的統合法(KJ法)および現象学的研究プロセスを展開できるよう教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	看護研究とKJ法				小林
2	質的統合法(KJ法)におけるデータ分析(1)ーデータの単位化、グループ編成ー				小林
3	質的統合法(KJ法)におけるデータ分析(2)ー図解と叙述化ー				小林
4	質的統合法(KJ法)の活用と発展				小林
5	看護研究と現象学				石崎
6	現象学的研究における「研究者」と「事象」				石崎
7	現象学的研究におけるデータ収集の方法				石崎
8	現象学的研究におけるデータ分析の手法				石崎
■ 準備学習 質的統合法(KJ法)については、参考書「発想法」を読んだことのない人は初回までに読んでおくこと。その後は、模擬データで分析を一部実施するため、それに伴う課題を提示する。 現象学的研究については、「現象学的思考とは」について文献リスト等を参考にし、各自準備の上参加してください。					
■ 教材・テキスト ・山浦晴男:質的統合法入門 考え方と手順. 医学書院, 2012. ・松葉祥一、西村ユミ編集:現象学的看護研究ー理論と分析の実際. 医学書院, 2014.					
■ 参考書 ・川喜田二郎:発想法. 中公新書, 1996. ・ホロウェイ、ウィーラー(野口美和子監訳):ナースのための質的研究入門. 医学書院, 2010. ・その他、適宜講義の内容毎に文献を紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 質的統合法(KJ法)に関する課題レポート(50%)(質的統合法(KJ法)の学習によって得られた「帰納的な観点からの探究の意味について」の自己の考えが論述されているかを評価する) 現象学的研究に関する課題レポートおよびプレゼンテーション(50%)(課題に対して探究した内容のプレゼンテーション、および形式を踏まえ適切に論述されたレポート等の完成度で評価する。)					
■ 教員からのメッセージ 質的統合法は、KJ法つまり野外科学におけるアブダクションに基礎をおくが、複雑な看護現象を明らかにできる方法論と考えている(小林)。現象学的研究は、長い歴史をもつ哲学を起源にしているため、難しいと受け止められがちであるが、看護者自身の経験や現に存在している世界を解釈し、了解するために有意義な方法であると考えている(石崎)。					

科目名	科学的研究方法論Ⅴ（文化人類学的研究）			選択必修	選択
担当教員	鈴木 清史				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	12:20-13:20(火～木)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 文化人類学的資料収集法と資料の記述、まとめ方そして分析に関わる基本的知識を学ぶ					
■ 授業の概要 看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力を培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、文化人類学的研究プロセスを展開できるよう文化人類学領域におけるデータ収集、分析の方法論を教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	文化人類学的研究の特徴				鈴木
2	研究対象の多様性				鈴木
3	フィールドワークについて ① 特徴				鈴木
4	フィールドワークについて ② 可能性と限界				鈴木
5	フィールドノートと民族誌				鈴木
6	資料のまとめ方				鈴木
7	資料の分析				鈴木
8	看護分野における文化人類学の汎用性と限界				鈴木
■ 準備学習 文化人類学や社会学の入門書をとおして基本的な概念整理をすること。文献はとくに指定しない。					
■ 教材・テキスト テキストおよび教材は適宜紹介する					
■ 参考書 T. H.エリクセン『人類学とは何か』（鈴木清史訳）世界思想社 2008／T.H. エリクセン『エスニシティとナショナリズム』（鈴木清史訳）明石書店 2006／A.クーパー『人類学の歴史』（鈴木清史訳）明石書店 2001年（特に第1章）					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業への参加40％／期末レポート60％ 授業の進捗や展開の仕方によって小レポートによる課題などを実施し、授業への参加の評価として勘案します。					
■ 教員からのメッセージ 授業で取り上げたり紹介したリス文献以外にも触れることを心がけてください。授業の進捗具合によって授業展開を対応することがありますので、ご了解願います。					

科目名	科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)			選択必修	選択
担当教員	河口てる子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	土曜日 16～18時
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 看護学と看護実践に有用な理論を構築するため、演繹的アプローチと帰納的アプローチを用いた理論構築方法、および理論の実践場面における活用方法について教授する。					
■ 授業の概要 看護実践モデルを構築するまでのプロセスと慢性疾患看護の実践場面における活用方法について、具体例を用いながら教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	理論開発の背景、レベル				河口
2	理論開発の要素、アプローチ、方法				河口
3	概念統合、概念統合へのアプローチ				河口
4	概念導出、概念分析、立言統合、立言導出、立言分析				河口
5	理論統合、理論統合の手順				河口
6	理論導出、理論分析、理論分析の手順				河口
7	理論の検証				河口
8	理論開発の具体例、活用例				河口
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況(プレゼンテーション50%、討議内容50%)で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。					
■ 教員からのメッセージ 主体的な取り組みを期待する。					

科目名	臨床倫理論			選択必修	選択
担当教員	柳井 圭子、石崎 智子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	柳井:12:30-13:20(木) 石崎:17:00-19:00(火)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的					
臨床倫理に関する基礎理論から実践的アプローチを修得し、教育的・指導的立場に立って後進の育成および臨床倫理委員会において中心的な役割を果たせるよう倫理的課題を探究する。					
■ 授業の概要					
臨床現場で遭遇する倫理的諸課題に対して、社会的ニーズの多様化に即した適切な対処ができるよう、臨床倫理および医療マネジメントの基本原則と重要概念を教授する。看護学の領域において、今後の医療における倫理的役割の重要性と必要性を理解し、医療倫理と医療マネジメントを応用実践できるように教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	臨床倫理に関する基礎理論から倫理的意思決定モデルを検討する				柳井
2	法制度状況から生じる倫理的課題を国内外の文献をとおして検討する				柳井
3	法的問題とその解決策から、臨床の倫理的諸問題を考察する				柳井
4	倫理コンサルテーションとしての看護者の役割を考察する				柳井
5	事例で考える臨床現場の倫理的課題1:医療・福祉施設で遭遇すること				石崎
6	事例で考える臨床現場の倫理的課題2:地域・社会のなかで看護者としてかわること				石崎
7	事例で考える臨床現場の倫理的課題3:生命の始期と終期に関すること				石崎
8	「いのちの倫理的受託者」としての看護者の役割を見いだす				石崎
■ 準備学習					
教員より提示される課題を文献リスト等を参考に準備の上、参加ください。プレゼンテーションを担当する場合には、教員および参加者に資料また必読文献を事前配付をし、活発でかつ実のある討議ができるよう配慮ください。					
■ 教材・テキスト					
指定はしません。受講者には授業開始前に参考文献リストを配付します。					
■ 参考書					
・宮坂道夫:医療倫理学の方法―原則・手順・ナラティブ、医学書院、2005。 ・藤野昭宏監訳:病院倫理入門―医療専門職のための臨床倫理テキスト、丸善出版、2011。 ・福井次矢、浅井篤、大西基喜編集:臨床倫理学入門、医学書院、2003。 ・Herman Wheeler, Law, Ethics and Professional Issues for Nursing, Routledge, USA,2012。 ・その他、講義の内容毎に文献を紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準					
①授業への参加度・プレゼンテーション(50%) 討論への参加状況、プレゼンテーション内容を評価します。 ②課題レポート(50%) 課題に対して探究した内容であり、形式を踏まえ適切に論述されているか等、レポートとしての完成度を評価します。					
■ 教員からのメッセージ					
臨床は、さまざまな倫理的問題が日常的に発生している場です。その中から課題を見出し、互いに刺激しあい、知識を増やし倫理的課題について学際的な対話を行いましょう。そのような討論が、臨床ケア現場で活かされることを期待しています。					